

西部浄化センター
下水汚泥固形燃料化事業

審査講評

令和4年 3月

西部浄化センター下水汚泥固形燃料化事業
総合評価委員会

「西部浄化センター下水汚泥固形燃料化事業」（以下「本事業」という）に関して、「西部浄化センター下水汚泥固形燃料化事業総合評価委員会」は、落札者決定基準に基づき事業提案内容等の審査を行ったので審査結果及び審査講評をここに報告する。

令和 4年 3月 15日

西部浄化センター下水汚泥固形燃料化事業総合評価委員会
委員長 治多 伸介

第1 事業者の選定方法

1. 事業者選定の方法

本事業は、設計・建設及び維持管理・運営の各業務を通じて、民間事業者の効率的・効果的かつ安定的・継続的なサービスの提供を求めるものであり、民間事業者の幅広い能力・ノウハウを総合的に評価して選定する必要があることから、事業者の選定にあたっては、松山市公営企業局（以下「公営企業局」という）の負担額、提案されるサービス内容をはじめ、施設整備能力、維持管理能力、運営能力等を総合的に評価するため、総合評価落札方式による一般競争入札を行った。

2. 審査の進め方

審査は、第一次審査として入札参加者が備えるべき参加資格要件の有無を確認する「資格審査」、次に、第二次審査として提案内容を評価する「提案審査」の2段階にて実施した。

「提案審査」は、入札説明書及び要求水準書等に示す内容を満足しているか否か等を確認する「基礎審査」と、提案内容と入札価格を様々な視点から総合的に評価する「総合審査」とに分けて行った。

3. 審査体制

公営企業局は、学識経験者及び公営企業局職員等から構成される「西部浄化センター下水汚泥固形燃料化事業総合評価委員会」（以下「総合評価委員会」という。）を設置した。

総合評価委員会は、以下6名の委員及び審査員により構成される。

表 1 総合評価委員会の構成

役割	委員名（敬称略）	所属・役職等
委員兼審査員	妹尾 克敏	松山大学 法学部教授
委員兼審査員 （委員長）	治多 伸介	愛媛大学大学院 農学研究科教授
委員兼審査員	溝上 達也	松山短期大学学長
審査員	新川 祐二	地方共同法人 日本下水道事業団
委員 （副委員長）	宇野 一生	松山市公営企業局 管理部 部長
委員	三谷 隆信	松山市公営企業局 管理部 副部長

4. 総合評価委員会の開催経過

総合評価委員会の開催経過は、次のとおりである。

表 2 総合評価委員会の開催スケジュール等

回数	開催日	主な審議事項
第1回	—※ (書面協議)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員長及び副委員長の選任について ・ 総合評価委員会の進め方について ・ 実施方針及び要求水準書(案)の公表について
第2回	令和3年7月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 落札者決定基準について ・ 採点方法について
第3回	令和4年1月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業者プレゼンテーションの実施 ・ 各提案における意見交換 ・ 定性評価項目の評価決定
第4回	—※ (書面協議)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 審査講評について

※ 新型コロナウイルス感染症拡大を受け、「会議形式」から「書面形式」に変更となった。

第2 審査結果

1. 資格審査

(1) 入札参加資格審査結果の通知(令和3年10月1日)

公営企業局は、以下に示す2グループから入札参加資格審査に関する書類の提出を受け、入札説明書に示す入札参加者資格に係る参加資格要件について審査した結果、いずれのグループも参加資格を満たしていることを確認した。

なお、審査の公平性を確保するため、最優秀提案者を選定するまで、企業名は伏せて、入札参加グループ名により審査を行った。

表 3 応募グループの構成等

グループ名	構成	企業名
Cグループ	代表企業	月島機械株式会社 大阪支社
	構成員	月島テクノメンテサービス株式会社 大阪支社西日本営業部
	協力企業	—
Fグループ	代表企業	日鉄エンジニアリング株式会社
	構成員	四国電力株式会社
	協力企業	—

2. 提案審査

(1) 基礎審査（令和4年1月7日）

事業提案書が提出された1グループについて、基礎審査を行い、入札価格が予定価格以下であること、各様式等に記載された内容が要求水準を全て満たしていることを確認した。なお、Cグループについては、事業提案書提出締切日前に辞退の申し出があった。

(2) 総合審査（令和4年1月28日）

① プレゼンテーション及びヒアリング

総合評価委員会は、総合審査を行うにあたり、事業提案書の内容をより正確に把握するために当該資格審査通過者から、プレゼンテーションを受け、提案内容についてのヒアリングを実施した。

② 総合評価

内容評価及び価格評価による総合評価結果は次のとおりである。

以上の結果、総合評価点に基づき日鉄エンジニアリング株式会社（落札者）を代表企業とするグループを最優秀提案者とした。

表 4 総合評価結果

項目	配点(満点)	Fグループ（最優秀提案者）
内容評価点	60.00 点	51.00 点
価格評価点	40.00 点	40.00 点
総合評価点	100.00 点	91.00 点

ア 価格評価

価格評価における評価結果は次のとおりである。

表 5 価格評価結果

項目	Fグループ（最優秀提案者）
①設計・建設	4,037,600,000 円
②維持管理・運営	7,400,000,000 円
③入札金額（①+②）	11,437,600,000 円 (消費税及び地方消費税相当額を除く。)
価格評価点	40.00 点

イ 内容評価

総合評価委員会は、事業提案書の内容に関して審査を行った。なお、内容評価点の定性評価については、各委員が評価採点し、合議形式により評価値を決定した。

表 6 内容評価結果

単位：点

評価項目	評価	配点	Fグループ (最優秀提案者)
基本計画に関する事項			
1. 実施方針・実施体制	定性	3	2.25
2. 財務安定性	定性	3	2.25
3. 事業実績	定量①	4	4.00
4. 悪臭防止対策	定性	4	3.00
5. 温室効果ガス排出量	定量②	3	3.00
6. 温室効果ガス削減量	定量③	3	3.00
7. 地域貢献①	定量④	3	3.00
地域貢献②	定量⑤	2	2.00
設計・建設に関する事項			
1. 設計・建設実施体制	定性	3	2.25
2. 汚泥有効利用	定量⑥	5	5.00
3. 受入設備・貯留設備能力①	定量⑦	2	2.00
受入設備・貯留設備能力②	定量⑧	2	2.00
4. 排水負荷	定量⑨	3	3.00
5. 安全対策	定性	4	3.00
維持管理・運営に関する事項			
1. 維持管理・運営体制	定性	4	3.00
2. 維持管理計画	定性	4	3.00
3. 固形燃料化物有効利用	定性	5	3.75
4. セルフモニタリング	定性	3	1.50
技術評価点		60	51.00

表 7 内容評価内容（定性評価）

評価項目	Fグループ（最優秀提案者）
本計画に関する事項	
1. 実施方針・実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本事業の主旨・目的等を正しく理解し、下水汚泥有効利用率が100%である点を評価した。 ・ 固形燃料化事業の豊富な実績から得られた長期安定稼働の知見を本事業に反映する点を評価した。
2. 財務安定性	<ul style="list-style-type: none"> ・ SPCの資本金額設定や出資者の各種財務指標等から裏付けされる財務計画の安定性を評価した。 ・ 自然災害等見越した不測の事態に備える十分な緊急融資枠の設定を評価した。
4. 悪臭防止対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臭気のリアルタイム監視による周辺環境対策や停電時の脱臭対策などを行う点を評価した。
設計・建設に関する事項	
1. 設計・建設実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業全体を統括する技術責任者が事業期間を通じて代表企業より配置される点を評価した。
5. 安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過去の実績を基に、停電等の電源喪失時においても状態監視や緊急散水等の設備対応が可能な点を評価した。
維持管理・運営に関する事項	
1. 維持管理・運営体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先行稼働施設との連携（情報共有）や代表企業からの専門アドバイザーによる支援などを評価した。 ・ 地元の機動力を活かした取組みとして、市内・県内業者との連携面を評価した。
2. 維持管理計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 豊富な運転実績から得られたノウハウを積極的に本事業へ導入する点を評価した。 ・ 長期安定稼働を念頭に、予防保全を基本とした情報のデータベース化や劣化診断ツールの導入などを評価した。
3. 固形燃料化物有効利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 固形燃料化物の全量販売に向け、有効利用先が構成員として事業参画している点を評価した。
4. セルフモニタリング	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設計・建設及び維持管理・運営における多層的チェック体制導入の提案があった。

3. 総評

本事業に対して、1グループから事業提案書が提出され、独自の技術やノウハウが随所に盛り込まれており、公営企業局の要求水準を上回る提案内容が示されていた。このような優れた提案をいただいたことに対して敬意を表するとともに、心から深く感謝申し上げたい。

総合評価委員会では、予め公表した落札者決定基準に基づき、各審査項目について厳正かつ公正に審査を行った結果、日鉄エンジニアリング株式会社（落札者）を代表企業とするFグループを最優秀提案者として選定した。

今後、Fグループは公営企業局と事業契約を締結し、長期間にわたり本事業を実施することになるが、公営企業局の要求事項のみならず、高く評価された提案内容、事業提案書ヒアリング等で示した内容を確実に履行することはもちろん、市民ニーズを取り入れた質の高い公共サービスの提供が求められる。その上で、安定的な事業運営のもと、本事業をさらに充実したものとし、民間のノウハウ、創意工夫を活用した効率的・効果的な事業となるよう、次の事項に留意して事業を実施されることを期待する。

- 固形燃料化物の有効利用先については、2050年カーボンニュートラルや石炭火力発電所のフェードアウト等を見据え、事業開始当初から代替措置の検討に努めること。
- 事業提案いただいた内容について、未達の場合に関する対処方法や代替措置を公営企業局と協議すること。
- 今後、松山市を起点とした本事業を各地域の実情に合わせたモデルへと更に発展させ、より素晴らしい事業が持続的・継続的に、四国一円、更には全国へ波及することを期待する。

以上